

千年の森便り No.148

2015.11.18

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

11月14日(土) 雨 ちば里山カレッジ研修

小雨の中、石松成子、鶴沢、苅米、久我夫妻、坂本、根本、真鍋、山口9名の会員で、ちば里山カレッジの受講生・スタッフ・関係者の皆さん 55 名をお迎えしました。

今年3年目を迎える里山カレッジは、全8回のうち3回がフィールド研修で、この日は、午前中は千年の森を視察し、午後からは清和県民の森で森林セラピー研修とのことでした。

久我代表の挨拶のあと、テーマの「生物多様性保全を主目的とする里山活動」に沿って、坂本、真鍋会員が約1時間余にわたって島の中をご案内しました。ヒメコマツ植栽、ギャップ伐採、モミ・ツガ林の説明などに加え、まだ残っていた野生キノコやセンサーカメラ談義で盛り上がりしました。

受け入れ準備のため早出して屋根の補強等に汗を流した会員の皆さんお疲れさまでした。研修生ご一行引き上げ後、会員は小雨の島内を自由に散策し観察しました。(事務局)



雨の豊英島は総勢64名で賑わいました

〇里山カレッジ案内 Aコース

まず、皆さんに小雨に煙る雑木林は晴天に無い風情があると話しました。特に紅葉期には空気が乾燥しすぎると葉がカサカサになって魅力半減です。当日は色付き始めた葉がきれいでした。

ヒメコマツ植栽地では何故、島外からの植物持ち込み禁止の原則に反して苗を植えたかについて、経緯を説明しました。ほぼ同じ大きさの苗を植えたのに、なぜ数年のうちに大きな生長差が出ているのか、不思議に感じられた方が多かったようです。それぞれの苗は異なった母樹の種から実生されているので、遺伝子の多様性が主たる要因だろうと話しましたが、いかがですか。

モミ、ツガ林では崖際から湖面上に斜に伸びている大木の生命力に驚くと同時に、その枝に掛けられたトビの巣を上から覗けるのも、予想外だったようです。

センサーカメラには運よくシカが写っていましたので、画像を再生して見てもらいました。広場近くの伐採地における植生の再生状況、シカの食害防止ネットの内側と外側の下草、灌木の密度差も分かってもらえたと思います。クロムヨウランやツチアケビについては現物が無いので、軽い説明にとどめました。カレッジの研修生の皆さんは熱心に聞いてくれて、質問や感想も聞けたので案内の甲斐がありました。(坂本)



Aコースはヒメコマツからスタート

〇里山カレッジ案内 Bコース

BコースはAコースと逆回りに、ギャップ伐採地→巨木林植生保護柵・クロムヨウラン保護区→ほこら山を経てシイタケホダ場→ヒメコマツ植栽地→センサーカメラ→モミ・ツガ林崖のトビの巣と一巡しました。ギャップ伐採地はその目的や調査状況、巨木林では保護柵内外の林床植生の違いと保護柵の必要性、保護柵内のモニタリ

ング調査など説明。また多数自生するクロヤツシロランやクロムヨウランの株を発見、この森に多い菌従属栄養植物の生態、また林床のニホンジカの糞を見つけてはシカとウサギの特徴の違いや鮮度？の見分け方、ほこら山では10年前、稀少種ネズ保護のため急斜面高木伐採時の事故発生を機に伐採訓練と安全管理の徹底を図ってきたこと、その後伐採を見送ってきた高木を今年無事伐採したことなど説明。シイタケホダ場ではシイタケ植菌とシカの食害、防護網設置によるシカと人間の攻防等。



Bコースはギャップ伐採地からスタート

13年前コナラ林を全伐して試行した萌芽更新が5年後にほぼ全滅、その跡地に2010年、ヒメコマツ植栽を開始、植栽初年のヒメコマツはシカの食害から保護するためのツリーシェルターの影響で半数以上枯れ、翌年植替え、毎年成長量調査と下草刈りなどの手入れを行っていること。そしてセンサーカメラによる島内哺乳類生息の実態、年4回のニホンジカ生息調査、モミ・ツガ林急斜面トビの巣作り、産卵・抱卵・雛育て・巣立ちの物語など。

案内係の断片的な説明も皆さんの熱心な観察と「この植物には葉が無い！」とか「この糞の落とし主は？いつの？」のような発見と質問のお陰で、何とかご理解いただけたようです。時間の都合で案内を省いた「禁断の岬」や「ホテイ岬」には何か宝がありそうと未練を残す方もありましたが、次回参加の時は自由に探検出来ます。（真鍋）

ちば里山カレッジを主催されたちば里山センターからお礼のメッセージ、そして研修生の皆さんから感想文を寄稿頂きましたので、ここに掲載します。

「ちば里山センターからのお礼」

（ちば里山センター）

第2回里山カレッジでは、雨模様の中行き届いた準備をしていただき、また丁寧な研修講義をありがとうございました。「ちば千年の森をつくる会」の先進的な活動から、多くの示唆をいただくことができました。受講生一同に代りまして御礼申し上げます。

また、数名の受講生が12月6日のインターンシップ（一日体験）を希望しておりますので、よろしくお願いします。



吊橋を渡って豊英島へ

「人と自然のかかわりにより森が変わる」

大西鮎美さん（柏市）

雨が少し降っていたので、森の中が静寂に包まれていて、さらに、森が明るいためとても気持ちよかったです。センサーカメラに映るシカの画像や25方形区にわけて植生調査をしている場所も見せていただき、何度か学校での実習で行った調査が大変だっただけに、ここまで詳細に調査を継続できるのはすごいなあと思いました。人と自然のかかわりによって、森が変わることをより身近に感じることができました。

豊英島へ渡る橋はとても揺れて少し緊張しましたが、とても良い経験になりました。ありがとうございました。

「ちば里山カレッジ“次世代リーダー養成コース”に参加して」 伊藤輝幸さん（四街道市）

あいにくの雨天の中でしたが、ちば里山カレッジのカリキュラムの一つとして豊英島を総勢50名近くで訪れ、二班に分かれ、一班は坂本様に、二班は真鍋様にご案内いただき、島内を巡りました。テーマは「生物多様性保全を主目的とする里山活動」。そのテーマのとおり、多様な植物を観察することができ、萌芽更新の方法も学ぶことができました。特に普段見向きもしないクロヤツシロランやクロムヨウランなどの菌従属栄養植物を知ることができ、非常に興味深かったです。トビの巣も目前で見ることができ、彼らがなぜその場所に巣作りをしたのかその意図を考えるだけで、何だかほほえましくなる自分がいました。自然って本当におもしろいですね。また、天候の良い異なる季節に是非とも訪れ、貴重な植物の様子を教えていただきたいと思います。

「先ず観察」

前田敏之さん（木更津市）

雨でりんどうの花が閉じること。シカがアセビを避けるため群生していること。森に何が起きているのかを知るには、まず観察することが大事だということを学ばせていただきました。希少なヒメコマツを見ることができて良かったです。

○センサーカメラの画像から

シカの母子連れが11月2日から5日まで、連続で写っていました。恐らく、この間は島に留まっていたものと思います。繁殖期になり、雄が付きまとうので難を逃れて子育てに専念したかったのでしょうか。（坂本）



ニホンジカの母子連れ 2015/11/05 AM9:39

○野鳥記録

午前中は里山カレッジ生の案内で集中して観察できず、昼食後も天候により早じまいにする事になったのでホテイ岬方面を歩いただけで、禁断岬方面には行けませんでした。何時もより種数が少ないのはその為です。オシドリが5羽見られたのが収穫でした。

ハシボソガラス声 ハシブトガラス声 オシドリ5 トビ1+声 ヒヨドリ3+声 メジロ声 オオバン3
以上7種（坂本）

○シャシャンボの実を食す

久しぶりに参加させていただき「千年の森」の良さをかみしめました。

島で貴重な「シャシャンボ」の実は小さな球形で黒紫色に熟していました。ブルーベリーの仲間でアントシアニンを多く含んでいるということで、つるっとした食感で甘酸っぱいのかと思います。ところが違いました。「シャシャンボ」の実はリンゴのようなサクサクとしたそして少し甘いおいしい実でした。御馳走さまでした。（石松成子）



シャシャンボの実 11/14

昨年11月16日1個残っていた赤い実を久我則子さんが食したら酸っぱかったとのことでした。今年は濃い紫に熟していて甘かったとのこと、実の数も殖えていました。被圧していた常緑樹除伐の効果？（真鍋）

お知らせ

○12月の定例活動日

12月6日（日）9時30分県民の森駐車場集合、シカ個体数調査、仮設物置整備、巨木林成長量調査、野鳥調査、紅葉狩りなど予定しています。関東一遅い、美しい紅葉を眺めに、ご家族、友人等誘ってご参加ください。

○豊英島のクロムヨウラン生理生態の研究発表

11月22日、東邦大学理学部（船橋市三山）で行われる「湾岸都市の生物多様性」と題した研究成果発表会において、当会会員（休会中）であるミルインさんにより豊英島のクロムヨウランの発表が行われますのでご案内します。比較的交通の便の良いところですので、お時間のある方はぜひご参加ください。添付の案内参照『豊英島におけるクロムヨウランの生理生態』ミルイン・奈良秀一（東京大学大学院）

○新ホームページ

既報の通り、ちば千年の森をつくる会のホームページURLは11月1日から次のように変更になっています。
<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/> お気に入りへの追加をお願いします。
旧URLは12月末には閉鎖されますので念のため。

平成27年度千葉県と連携大学との研究成果発表会

湾岸都市の生物多様性

『湾岸都市の生物多様性』をテーマに、千葉県と連携協定を締結している6大学の生物多様性保全に関する研究成果を、口頭及びポスター形式で発表します。また、東京湾に面する地方自治体として、船橋市と市川市の生物多様性保全の取組の現状についても紹介します。そして、これまでの成果から生物多様性の保全や活用に関する課題や今後の方向性について議論します。ぜひご来聴ください。

日時:平成27年11月22日(日)

13:00~16:45

場所:東邦大学習志野キャンパス 理学部V号館
(船橋市三山2-2-1)

定員:先着100名・参加無料

主催 千葉県

お問い合わせ先 千葉県生物多様性センター 043-265-3601

プログラム

13:00	開会	
13:00～13:10	挨拶	熊谷宏尚（千葉県生物多様性センター） 河野博（東京海洋大学）
13:10	口頭発表	
13:10～13:30		『生物多様性地域戦略策定に向けて』 関真人（船橋市環境部環境政策課）
13:30～13:50		『生物多様性モニタリングシステムの取り組みと今後について』 小池智之（市川市環境部自然環境課）
13:50～14:10		『東京湾岸の生物地理情報』 村田明久（千葉県生物多様性センター）
14:10～14:30		『利根川水系におけるニホンウナギの行動生態』 木村伸吾（東京大学大学院）・板倉光（大気海洋研究所）
14:30～14:40	休憩	
14:40～15:10	各ポスターの代表者より説明	
15:10～16:10	ポスター発表	『ソーラーパネルが地域環境と生物多様性に与える影響について』 小澤彩香（江戸川大学）・吉永明弘（江戸川大学） 『アマモのある水域とない水域における魚類相の違い』 菅原将太（東京海洋大学）・梶山誠・島田裕至（千葉県水産総合研究センター東 京湾漁業研究所）・河野博（東京海洋大学） 『生命のにぎわい調査団の調査結果からみた千葉県の干潟の特性』 中村光一・鈴木裕也・原田一平・原慶太郎（東京情報大学） 『希少ランの保全技術開発—キンラン類の事例から』 塩見直希・奈良一秀（東京大学大学院） 『春季のシラカシ当年葉における内生菌群集』 森永健太・福田健二（東京大学大学院） 『千葉県柏市における野生中型哺乳類の生態』 小南優・鈴木牧（東京大学大学院） 『豊英島におけるクロムヨウランの生理生態』 ミルイン・奈良秀一（東京大学大学院） 『千葉県野田市におけるコウノトリ餌動物量の定量評価』 桑原里奈（東邦大学） 『印旛沼流域における特定外来生物ナガエツルノゲイトウの分布拡大-揚水機場を通じた 河川から水田そして再び河川への拡散過程-』 鈴木広美（東邦大学） 『伊豆諸島-東京湾海域におけるオオミズナギドリ分布と密度-島陰効果と沿岸湧昇の 効果を評価する-』 寺内一美（東邦大学）
16:10～16:20	休憩	
16:20～16:45	総合討論	
16:45	閉会	

東邦大学習志野キャンパスの交通案内

【JR線＋バス】

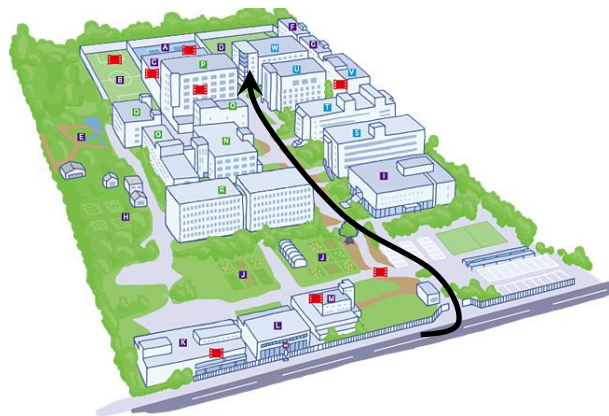
- 総武線津田沼駅下車
- 北口バスターミナル④番で京成バスに乗車
「三山車庫」・「二宮神社」方面行き、「東邦大学前」下車（約10分）
- ※ お帰りの際の津田沼駅へは「東邦大学前」からの運行本数が少ないため、「大久保十字路」バス停から「津田沼駅」行きのバスのご利用が便利です。

【京成線】

- 京成本線（上野・日暮里駅から佐倉・成田空港方面行き）京成大久保駅下車
- 駅から商店街を徒歩約10分

【お車で越しの方】

- キャンパス内の駐車場は利用できません。
- 会場周辺にはコインパーキングがありますが、数が限られているため、公共交通機関をご利用いただくことをおすすめします。



A テニスコート	H メディカル ハーブガーデン	薬学部
B サッカー・ ラグビー場	I 習志野メディアセンター (図書館・マルチメディアスタジオ)	N 薬学部A館
C スポーツアリーナ (体育館)	J 薬用植物見本園(薬草園)	O 薬学部B館
D 野球場	K 学生食堂(PAL)	P 薬学部C館
E 薬木園	L 学生ラウンジ	Q 薬学部E館
F 学生部室1号館	M 東邦会館	R 新校舎(2016年竣工)
G 学生部室2号館	(キャリアセンター・ マルチメディアラウンジ)	理学部
		S 理学部I号館
		T 理学部II号館
		U 理学部III号館
		V 理学部IV号館
		W 理学部V号館